



第8期推進員を知事が委嘱

本年4月25日、福岡県吉塚合同庁舎において「第8期福岡県地球温暖化防止活動推進員」の委嘱式が行われました。

今期県知事より委嘱された推進員は合計94名で、任期は令和3年3月31日までの2年間となります。

推進員には、地域における温暖化対策を推進するリーダーとして資質の向上に努め、自ら日常生活において温暖化防止活動を実践するとともに、福岡県、市町村、県センターと連携して、一般家庭や事業所、学校などで環境家計簿の普及、学習会の開催等、温暖化対策に係る様々な啓発活動が期待されています。

各地域の推進員在席状況

地域名	推進員数
北九州・京築	19名
福岡・筑紫	15名
宗像・遠賀	15名
筑豊	23名
久留米・北筑後	12名
大牟田・南筑後	10名

イオン等でエコファミリー募集

センターでは福岡県エコファミリー応援事業において毎年新規にエコファミリーを獲得するため、大型商業施設や道の駅、地域環境イベント等でブースを出展し、エコファミリーの募集を行っています。



イオン九州の店舗



エコーブ生協まつり

福岡県ではエコファミリーの拡大を目指して、スマートフォンを使ってエコファミリーの登録・ポイント獲得ができるアプリケーションを開発中で、来年春の運用開始を予定しています。



九州・沖縄の地域センター、推進員が合同研修会

九州・沖縄ブロックの地域センターでは、環境省補助事業の中で毎年各地域センター及び地域の推進員代表を対象に合同推進員研修会を開催しています。第2回目となった合同研修会には、福岡県から県センタースタッフ3名と推進員リーダー6名が参加しました。

今回は、初日に各地域センターからの取組紹介、各県の推進員代表によるユニークな活動紹介が行われました。発表の中には寸劇で環境啓発を行っている例が実演で紹介されました。

翌日には公認ファシリテーターによるSDGsに関する講義の後、参加者全員で自治体職員と市民の役に分かれて“まちづくり”をテーマに楽しく「SDGs de 地域創生ゲーム」を行いました。ゲームを通してSDGsをより深く理解する研修となりました。



寸劇による環境啓発実演



SDGs カードゲームの講義



地球温暖化で水災害が頻発化する恐れ

●近年の異常気象と災害状況

近年、「数十年に一度の」「記録的な」気象、災害が続いています。九州では平成24年、29年、30年の九州北部・西日本豪雨のほか、今年も佐賀県・福岡県・長崎県で豪雨となりました。また、10月には強大な台風19号が日本列島に上陸、東日本を中心に広範囲にわたって暴風、大雨を降らせ甚大な被害が出ています。



写真：平成29年九州北部豪雨（朝倉市）国土地理院撮影

近年九州地方を中心に発生した豪雨災害及び令和元年度台風第19号の概要

発生時期	被災地	被害の概要
平成24年7月九州北部豪雨	福岡、熊本、大分、佐賀	死者・行方不明者33人、住家全壊276棟、半壊2,306棟等
平成29年7月九州北部豪雨	福岡、大分	死者・行方不明者43人、住家全壊309棟、半壊1,103棟等
平成30年7月豪雨	西日本	死者・行方不明者232人、住家全壊6,758棟、半壊10,878棟等
令和元年 前線による大雨	福岡、佐賀、長崎、山口	死者4人、住家全壊95棟、半壊877棟等
令和元年 台風第19号	関東・東北地方、静岡、新潟等	死者・行方不明者101人、住家全壊2,902棟、半壊20,616棟等

出典：平成25～30年版消防白書（総務省消防庁）、内閣府HP 防災情報のページ(12/2時点)

●地球温暖化による豪雨の頻発

なぜ近年、こうした異常気象が頻発しているのでしょうか。その原因の一つとして、地球温暖化があげられます。

地球温暖化はただ地球が暖くなるわけではありません。気温が上昇することにより、水圏にとっても大きな影響を与えます。

氷河・南極の氷が溶け、熱膨張等で海面が上昇するほか、気温上昇によって大気中の水蒸気量が多くなることなどで、雨の降り方が極端になる、台風が強大化するとされています。

右図にあるように、水蒸気量は長期的に増えており、平成30年7月豪雨も、地球温暖化による水蒸気量の増加の影響があったと考えられています。

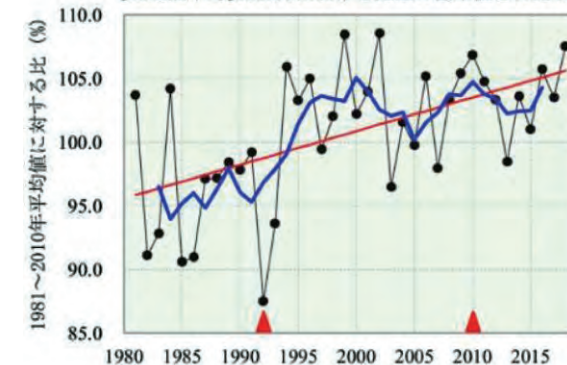
●急がれる災害対応

これから少なくとも数十年の間はこうした異常気象が増加すると考えられています。加えて、地球温暖化がこのまま進むと、こうした災害により人間の生活環境も脅かされます。

私たちは今すぐに地球温暖化防止への緊急対策を行うと同時に、地球温暖化による影響を最小限にできるよう減災等の手立てを講じる必要があります。

日本域における7月の上空1500m(85hPa)の月平均比湿(空気1kgあたりに含まれる水蒸気量)の基準値との比の経年変化(期間 1981～2018年)

[13地点平均]850hPaにおける比湿の基準値との比(7月)



- (黒細線)：国内13高層気象観測地点の基準値との比(%)を平均した値
- (青太線)：5年移動平均値
- (赤直線)：長期変化傾向(信頼度水準99%で統計的に有意)
- ▲(赤三角)：2つの△の間では測器の変更の影響により、相対的にやや値が高まっている可能性がある

※基準値は1981年から2010年の平均値。

出典：「平成30年7月豪雨及び7月中旬以降の記録的な高温の特徴と要因について」気象庁H30

コラム

地球温暖化対策に若者から強いメッセージ

2019年9月、国連気候行動サミットにて、グレタ・トゥーンベリ氏が各国代表に向けて演説を行いました。彼女は演説の中で、地球温暖化に対し地球全体の平均気温の上昇を1.5度に抑える目標を掲げているが、現状は目標に全く見合っていない、まだほとんど存在していない技術で私たち世代が温室効果ガスを削減することを当てにしている(責任を放棄して行動を先送りしている)が、それは到底受け入れられないとして更なる対策を強く求めました。

このサミットにあわせて行われたデモには、世界中で若者ら700万人が参加したといわれています(日本では5000人程度が参加)。



プラスチック問題に私たちはどう向き合う

●今、注目されているプラスチックごみ

ウミガメの鼻に詰まったストローを抜くーそんなショッキングな動画が世界中を駆け巡りました。プラスチックは世界中で使われていますが、それがきちんと処理されず、海まで流れて生態系に悪影響を与えたり、マイクロプラスチックになるなどしていることがわかり、今大きな話題となっています。



漁具、ペットボトル、プラスチックの植木鉢、靴底など人工物がたくさん散乱しています。

●プラスチックごみによる海洋汚染

日本の海岸にあるプラスチックごみには、①暮らしの中で発生したごみ（街中の散乱ごみなど）、②海域利用の際に発生したごみ（釣り、レジャー、漁業など）、③国外から流れてくる漂着ごみの大きく3種類あります。

これらの海岸ごみがあることで景観の破壊、観光資源価値の低下、漁業への影響、生物への影響（釣り糸が絡まった野鳥、ビニール袋を誤って食べて餓死したクジラなど）が発生しており、マイクロプラスチック化による人への影響が懸念されています。



●行き場を失った日本のプラスチックごみ

また、これまで一部のプラスチックごみは、中国をはじめとする外国に輸出していました。しかし中国国内の環境汚染等により、中国が受入停止したほか、一部東南アジアでも受入を停止しました。

諸外国に輸出するはずだったごみの多くは国内の処理業者の下にとどまったまま、現在処理が逼迫している状況で、プラスチックごみの不法投棄の問題が懸念されます。

砂浜に、自然物とビニールやプラスチックのボトルなどが混在しています（福岡市内で撮影）。

●私たちができること

プラスチック問題は今すぐ取り組むべき課題ですが、私たちの行動ひとつで改善できるものがあります。それはプラスチックの使用を減らすこと、そして使ったものは分別回収することです。

①レジ袋はもらわず（買わず）マイバッグを使う（ワンウェイプラ削減）

2020年7月からレジ袋は一部有料化します。これを機にマイバッグ生活へ！

②プラスチック包装か否かを選択できるときは、プラ包装が無いものを選ぶ

野菜などは包装のない小売のものを購入。
一部商品ではプラ包装をやめて紙包装にしているものもあります。

③プラスチックは徹底的に分別、リサイクルに回す

プラスチックごみ分別の必要のない地域も、スーパーの店頭などで回収を行っているところがあります。是非そちらに出してください。

④外でごみが落ちていたら、拾って分別処理する

拾ってきちんと処理することで、マイクロプラスチックのもとをなくすことができます！



プラスチックのほとんどは石油を使って作られており、プラスチックがごみになった場合、日本ではその多くが燃やされています（熱回収58%、単純焼却8%）。

プラスチックごみを減らすことは、地球温暖化対策につながります。

参考：「プラスチック資源循環戦略」（2019） 消費者庁ほか
「海岸漂着ゴミって何だろう？」福岡県

～あなたの消費が世界を変える～ エシカル消費

●地球がもう限界に

2050年までに世界の人口が96億人に達した場合、私たちの今の生活様式を持続させるためには、地球が3つ必要といわれています。※

私たちは高度経済成長に伴い、これまで大量生産、大量消費を行なってきましたが、温室効果ガスの削減を含め、消費のあり方を大きく変える転換期を向かえています。

※：国際連合広報センター 持続可能な開発目標（SDGs）2018年12月より

●エシカル消費

SDGs目標12に掲げられている「つくる責任つかう責任」として消費者はどのような役割を担っているのでしょうか。私たち消費者は価格や品質、安全性を基準に商品を選びますが、第4の尺度として人や社会、環境に配慮した商品やサービスを積極的に選択することを「エシカル消費」といいます。

エシカルとは「倫理的、道徳的」という意味で、法律の縛りはないけれど多くの人が正しいと思うこと、または本来人間が持つ良心から発生した社会的な模範を意味します。例えば、買い物をする際に地産地消の商品を選ぶ、陳列されている商品を手前から購入する、エコバックを持参するという行動もエシカル消費に繋がります。

エシカル消費の具体例

人	障がい者支援につながる商品
社会	フェアトレード商品・寄付付きの商品
環境	エコ商品・リサイクル商品・資源保護等に関する認証がある商品
地域	地産地消・被災地商品・伝統工芸
生き物	動物福祉・エシカルファッション（フェイクファー）



●食品ロス

食品ロスを減らすことも「つかう責任」としてとても大切なことです。

日本の食品ロスは年間600万トン以上発生しており、およそその半分は家庭から発生しているといわれています。2019年10月に食品ロス削減推進法が施行され、消費者の役割として、食品の購入、調理方法を改善し削減について自主的に取り組むことが明記されました。

食品ロスの削減に取り組むことは、身近でかつ重要な温暖化対策の一つです。食品を生産、廃棄するためのエネルギー削減だけでなく、水資源の節約にも繋がります。

食品の期限表示を正しく理解し、家にある食材・食品をチェックしましょう。使いきれ的分だけ購入し、つくりすぎにも注意しましょう。

●私たちの消費で未来が変わる

私たち消費者が人や社会、環境に配慮した消費行動に変われば、生産する側もそれに応じた生産システムが変わっていきます。

持続可能な社会の実現に向けて、自分にできることから始めてみませんか。



2015年9月の国連総会で採択されたSDGsの17の目標のなかにも、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会などと併せて、「持続可能な生産・消費形態の確保」が掲げられています。エシカル消費はSDGs目標12に関連する取り組みで、他の目標にも大きく関わっています。